

18 美容脱毛実技理論① ② (ワックス脱毛)

頁	行	誤	正	解説
12	図 1-5	<ul style="list-style-type: none"> ・「挿入深度とエネルギーを放出する範囲」 ・ 6 mmと 8 mmの図 	<ul style="list-style-type: none"> ・「挿入深度とアルカリ水溶液の生成領域の関係」 ・ 2 mmと 4 mmの場合と同じように、筒状の生成パターンで描くべきである。また、浅い場合はプローブ周辺のアルカリ濃度をやや濃く表わす図にする。 	注 18-1 注 18-2
12	図 1-6	(同出力・同時間・同深度)の左側の図。	生成量は同じで、プローブが細い場合のほうが、やや濃度の高いアルカリ水溶液が生成される、という事を表す図にする。	注 18-3
20	図 1-14	右側の「浅い挿入」の図のうち、3 mmと 2 mmの図。	色の濃い部分が、プローブの先端から発生している図にしなければならない。	注 18-4
78	表 4-1	眉ー成長期の期間 <u>4~8年</u> 耳ー成長期の期間 <u>4~8年</u> 表内の全ての「 <u>週</u> 」 頭ー成長期終末の深度 <u>2~5 mm</u> 頬ー成長速度 <u>0.35mm</u> 顎ー成長速度 <u>0.35mm</u> 胴体ー成長期の期間 <u>4 カ月</u> 陰部ー休止期の期間 <u>3 カ月</u> 陰部ー成長期の期間 <u>4 カ月</u> 陰部ー毛包数 <u>80</u> 脚ー毛包数 <u>65</u> 胸ー毛包数・ <u>記載なし</u>	眉ー成長期の期間 <u>4~8週</u> 耳ー成長期の期間 <u>4~8週</u> 「 <u>週</u> 」 頭ー成長期終末の深度 <u>3~5mm</u> 頬ー成長速度 <u>0.32mm</u> 顎ー成長速度 <u>0.38mm</u> 4 カ月削除 陰部ー休止期の期間 <u>12 週</u> 陰部ー成長期の期間 <u>数カ月</u> 陰部ー毛包数 <u>70</u> 脚ー毛包数 <u>60</u> 胸ー毛包数・ <u>65</u>	
114	下から 3	病変 <u>分部</u>	病変 <u>部分</u>	

【注 18-1】本文の説明内容から、わかりやすいタイトルにする方がよい。

【注 18-2】2 mmと 4 mmの挿入深度では水分の傾きがなく、6 mmと 8 mmでは水分の傾きがある図になっているが、本文に「水分の傾きがない場合」「パターンは筒状で」とあるので、全て統一して、水分の傾きのない筒状のパターンで比較するべきである。
マイケル・ボノの著書「the Blend Method」P53 図 10 参照。

【注 18-3】 図 1-6 では、エネルギーやアルカリ水溶液の集中度がわからないうえ、プローブが太ければ大きなエリアに、細ければ狭いエリアにアルカリ水溶液ができるというように見える。器の大きさが同じで、同出力・同時間・同深度であれば、アルカリ水溶液の生成量が同じでも、プローブが細い場合のほうが、やや集中した、濃度の高いアルカリ水溶液が生成される、という事を表す図にするべきである。

マイケル・ボノの著書「the Blend Method」 P53 図 11 参照。

【注 18-4】 図 1-14 の浅い挿入では、プローブの長さの途中が最も色が濃くなっていて、熱原型が「ポイントエフェクト」の理論に合っていない。

マイケル・ボノの著書「the Blend Method」 P73 図 10 参照。